



内田 精彦 議員

質問 不育治療費助成事業の創設は

町長 実施町に直接聞き検討する

質問 県内の町村では、現在川本町、吉賀町、西ノ島町において不育治療費の助成制度がある。奥出雲町の出生数は、令和2年度56人、3年度40人、4年度54人と依然として少ない。当町は子育て支援に力を入れているが、一人でも大事に産み育てることが重要である。そのためには、不育治療費助成事業を創設すべきと考えるが。

町長 不育治療費助成については、子育て支援の一つとも考えられるので、実施している町村に私が直接お聞きし検討する。

不妊治療費の拡充

質問 県内の11町村では、上限3万円が奥出雲町、吉賀町、隠岐の島町、10万円が津和野町、海士町、15万円が邑智町、西ノ島町、30万円が飯南町、川本町、美郷町、奥出雲町の助成が他町村と比べて十分で

ないと思うが拡充の考えは。

町長 令和5年度から、助成期間を拡充した。助成限度の拡充については、現在、来年度の当初予算編成にて準備を進めている。

木次線について

質問 三段スイッチバック、おろちループ、道の駅など、木次線の乗客、観光客の増加対策のためのプロジェクトチームを立ち上げる考えは。

町長 それぞれの商工会や観光協会などによる木次線利活用推進協議会により取り組んでいる。

質問 奥出雲町独自の立ち上げができないのか。

町長 沿線自治体、両県にまたがる自治体でおこなっており、これも大事である。プロジェクトチームについては十分考えながら利活用を考え



子育て中のおかあさんと赤ちゃん



おろち号のラストランを待つ出雲横田駅